

【五月の言葉（平成三十年）】

すべて自分自身が正しいと考えるのは

仏教的に見れば正しくない

自分の至らなさに気づいて行動する

生き方として、すべて自分が正しい、あるいは自分の思いどおりになるというのは、仏教的に見れば正しくないことです。

私たちは、自分自身とほかの人をまったく同じように考えることができない、ということがあります。また、私を無くす「無私」という言葉がありますが、自分自身のことを横へ置いておいて、ほかの人のことを考えられるかということ、やはり難しいです。

他人の喜びを私の喜びとし、他人の悲しみを私の悲しみとする仏さまのような行いができない自分自身の姿を認めて、そのうえで、常に自分自身の意識や行いを思い、自分の至らなさに気づいて行動することが大切です。